



## ユーモア考

浅野 純次

(経済倶楽部理事)

▼7月下旬、経済倶楽部山中湖畔山荘の村開きに行ってきました。山中湖畔からちよつと登った森林地帯を富士急行から借り受けて、昭和8年から石橋湛山さんや三浦鏡太郎さん、水上達三さんたちが思い思いに別荘を建てて、経済倶楽部別荘村としたのが始まりです。

今、住人の多くは経済倶楽部会員で約40世帯。今年も中心施設の山荘でのデイナー会で卓話のごときものを30分ほどしゃべるように依頼され、家族同伴の席でもありユーモアについて話しました。

▼ユーモアとは「社会生活・(人間関係)における不

要な緊迫を和らげるのに役立つ、婉曲表現によるおかしみ」と辞書にあります。でも「ユーモアは定義できないもので、そもそもユーモアの定義をすること自体ユーモアの欠如を示すものだ」(チェスタトン)とすれば無駄な詮索はしない方がいいでしょう。

▼ユーモアの効用としては、笑いの効用を生む、一体感を醸成する、潤滑油の役割を果たす、反論や批判を婉曲化する、失言をごまかす、相手を煙に巻く、などが考えられます。ユーモアは常に笑いとともにもあります。笑いは健康のもとですから、ユーモアを連発できるようになら健康にすこぶるプラスするし、聞かされるほうも健康のおすそ分けにあずかれるでしょう。

▼ユーモアの実例は発祥地のイギリスに多いのです。ある人がチャーチルに聞きました。「ろくに絵も描けない人が名士というだけで美術展の審査員に収まっているのはおかしいではないですか」。チャーチル曰く「別に構わないでしょう。私は卵を一度も産んだことはあ

りませんが、卵が腐っているかどうかはわかります」▼新聞記者が聞きました。「金曜日に結婚した人は一生、不幸になると言いますが」。バーナード・ショウ答えて曰く「もちろんそのとおりですとも、金曜日だけが例外なんてことあるものですか」。イギリスのユーモアはあまり素直でない感じがしますね。

▼政治家にも得意即妙のユーモアを期待しますが、昨今の日本の政治家はだめです。で、有名な話をもう一度。クリントン大統領に会ったらHow are you?と言えばI'm fine, and you?と答えるから、Me too,と言えはいくらと教えられた森首相。Who are you?と言ってしまう、大統領がとっさにI'm husband of Hillary Clinton.と答えた。本当ならたいしたユーモアです。そこで首相はMe too,と言ったというのですが。

▼ユーモアは不得意と言われる日本ですけど、落語、川柳、落首、戯歌、雑俳などのユーモア文化、それも庶民文化を永年、楽しんできたのですから、権力やいけ

好かない人を婉曲にやつつける才能は大変なものがあるのではないか。電車の中で化粧に余念のない女性を見て腹が立つときは、川柳欄にあった「ぎゃつ毛虫! 叫べば娘のつけまつげ」を思い出すと収まります。

▼ユーモアは時代、国境、階級を越えられない、というのはたぶん真実で、やはり日本人には日本のユーモアが一番でしょう。日常生活のユーモアは日本語のおかげもあります。①妻が「元気で長生きしてね。寂しくなるから」と。感激して妻のほうを見ると、犬に向かって言っていた。②保育園の娘が遠足から帰ってきてリュックから大事そうにティッシュユでくるんだのを出し「おはなが入っているよ」と言うので、「レンゲ? タンポポ?」と開けてみるとばりばりに乾いた鼻水だった。③自分の頭を断層撮影した写真を見て「やっぱり脳みそ少ないようですね」と冗談を言うと、若い医師が「そ、そんなことないですよ。よく詰まっていますよ」とひどく慌てて答えた。…みな、長生きできそうですな。